

マイケル・J・フォックス最新作!

「バック・トゥ・ザ・フューチャーPART3」以来
マイケルがイメージ・チェンジをはかる
人気スター役に挑戦、果たして…?



マイケル・J・フォックス・ジェームズ・ウッズ

ハードウェイ

ユニバーサル映画提供/バタム・エンターテインメント/ウィリアム・サックムプロダクション/バタム制作/THE HARD WAY/スティーブン・ラング/アナベラ・シオラANDベニー・マーシャル
音楽:アーサー・B・ルーベンスタイン/編曲:フランク・モリス&トニー・ロシバード/プロダクション・デザイン:フレッド・ハリソン/撮影:ロバート・プライム&ドン・マッカルハインズ/ストーリー:レム・トプス&マイケル・コソール
脚本:ダニエル・ハインズ&レム・トプス 製作:ロブ・コーエン&ウィリアム・サックム 監督:ジョン・バタム/ユニバーサル映画
DOLBY DIGITAL
© 1991 UNIVERSAL CITY STUDIOS, INC.

THE HARD WAY



ハリウッドの人気No.1スターが、ニューヨークのスラム街育ちで今や同市警のNo.1刑事にのし上がった男に助けを求めた「なんとか君の言動を身につけたい。これを僕は求めていたんだ。君の素顔を知りたいから、僕は四六時中、君のもとを離れないよ」

ハード・ウェイ

「バック・トゥ・ザ・フューチャー」シリーズをはじめとする大ヒット作で、世界にその名を知られたマイケル・J・フォックス。軽快なフットワークと淀みのない会話で、笑わせ、泣かせる人気者。

かたや、「ワンス・アポン・ア・タイム・イン・アメリカ」で、クローズ・アップされ、「サルバドル」のジャーナリスト役では、アカデミー賞にもノミネートされ、アクションからシリアスな演技まで、スタイリッシュにこなすジェームズ・ウッズ。

アメリカを代表する、全く違うタイプのスター二人が、その持ち味を競うかのように激しく演技の火花を散らした話題作だ。



ハリウッドのトップ・アクション・コメディ・スターのニック・ラングは、イメージ・チェンジをはかろうと悩む毎日。次回作でタブな殺人課刑事の役を演じるようになっていた。そんな彼の目に飛び込んできたのは、殺人事件を伝えるニューヨークからのテレビ・ニュースだった。画面に写し出されたのは、ニューヨーク市警の殺人課刑事ジョン・モス。現場を激しく動きまわり、インタビューするレポーターにも辛辣な言葉を浴びせるモスは、ラングが求めていた新しいイメージそのもの。



ラングは早速、ニューヨークへと飛んだ。

その頃、モスは通称パーティ・クラッシャーという殺人鬼を追っていた。

ニューヨーク中に堂々と現れ殺人を犯す凶悪犯のクラッシャー。執拗に追い続けるモスに挑戦するかのようになり、クラッシャーは犯行を重ねていた。

クラッシャーの度重なる犯行に怒りを爆発させる寸前のモスは、市警の署長に呼ばれる。モスの捜査にラングを同行しろというのだ。俳優のお守りなんかできるかとモスは言い返すが市長じきじきの命令と言われ、彼は渋々ラングを連れ歩く羽目になる。

だが、このラング、モスが周到に計画した手入りを、事あるごとに馬鹿げた行動でオジヤンにしていける。その上、ラングはモスのアパートに寝泊りすると言い出した。ただでさえ、恋人のスーザンと近頃うまくいって



ないのに、ラングと一緒に暮らすようになれば、もう、モスの生活は目茶苦茶……。

連続して展開するコミカルなシーンとアクション。正に、フォックスとウッズの魅力を存分に引き出すことに成功した話題の爽快作である。

監督は「ショート・サーキット」「バード・オン・ワイヤー」のジョン・バダム。共演に、スティーブ・ラング、アナベラ・シオラ、「レナードの朝」の女流監督ベニー・マーシャル等、豪華な演技陣が顔をそろえた。



CAST

ニック・ラング ……マイケル・J・フォックス
 ジョン・モス ……ジェームズ・ウッズ
 パーティ・クラッシャー ……スティーブ・ラング
 スーザン ……アナベラ・シオラ
 ビリー ……L.L.クール・J
 アンジー ……ベニー・マーシャル
 グレイニー ……ジョン・カボダイシ
 プーリー ……ルイス・ガソマン

STAFF

監督 ……ジョン・バダム
 製作 ……フィリアム・サックム
 ロブ・コーエン
 脚本 ……ダニエル・バイン
 レム・ドブス
 撮影 ……トン・マツカルバイン
 ロバート・プライムス
 音楽 ……マーサー・B・ルーベンスタイン
 ニューヴァーサル映画 配給 UIP 配給